

予防接種事務のデジタル化について

区内予防接種協力医療機関向け説明会
第1回 制度概要・基本方針編

第1回 令和8年10月15日

練馬区 保健予防課 予防接種係

本日お伝えしたいこと

本日は、つぎの4点についてご説明します。

1



予防接種事務デジタル化の概要

デジタル化の目的や仕組み、期待される効果についてご説明します。

2



令和8年8月に再整理された国の方針

最新の国の方針や、今後のスケジュールについてご説明します。

3



医療機関で変わること・変わらないこと

医療機関での業務や運用の変更点・継続点を整理してご説明します。

4



練馬区における今後の進め方

練馬区のスケジュールや、今後の説明・調整の流れについてご説明します。



本日は、制度概要と今後の方向性をご理解いただくための説明会です。

この場で、具体的な機器の購入や操作方法を決定していただくものではありません。



結論

第1回説明会は「概要説明の場」であり、
直ちに導入判断を求める場ではありません。

はじめに

1



令和4年に改正予防接種法が公布 デジタル化に関する規定は令和8年6月に施行

改正予防接種法には、予防接種事務のデジタル化に必要な規定として、オンラインによる対象者確認の仕組みの導入等が盛り込まれ、令和8年6月に施行されました。

2



デジタル化のシステムは令和8年6月から運用開始 自治体システムは令和10年4月までに順次改修

※法令上、自治体は令和10年4月1日までにデジタル化に必要な機能を実装しなくてはならないこととされています。
※令和8年度に約20自治体、令和9年度に約50自治体、令和10年度に約1,600自治体が予防接種のデジタル化を開始する予定です。

3



令和10年4月に接種記録等のデジタル化開始予定 令和10年10月にデジタル化開始予定

令和8年度・9年度
(準備・調整)

令和10年4月
予防接種事務のデジタル化開始

令和10年10月
デジタル予診票の運用開始

予防接種事務デジタル化とは

これまで紙を中心に行ってきた予防接種事務を、デジタルでも行えるようにする全国的な取組です。

現在の主な事務（紙を中心とした運用）

- 1  紙予診票による予診
- 2  紙予診票へ接種記録を記載
- 3  紙予診票・請求書の取りまとめ
- 4  医師会へ紙予診票を送付
- 5  自治体での記録入力



将来的な姿（デジタルでの運用）

- 1  接種対象者・接種履歴の確認
(マイナンバーカード・マイナポータル等)
- 2  接種記録のデジタル登録 
(医療機関が予診・請求システムに登録)
- 3  登録と同時に請求・支払をオンライン処理 
(国保連を介した請求・支払)
- 4  接種記録の早期反映
(自治体での入力作業の軽減)
- 5  接種状況の集計・活用
(有効性・安全性の向上に向けた分析・研究、
国等におけるデータ活用)

予防接種事務のデジタル化は、紙媒体を中心とする事務負担や、予防接種の有効性・安全性を把握する情報基盤の不足という課題を踏まえて進められています。予防接種法の関係規定は令和8年6月1日に施行され、自治体システムには令和10年4月1日までに必要な機能を実装することとされています。



結論

紙の予診票を単に電子化するだけでなく、
接種記録・請求・情報連携を見直す取組です。

令和 8 年 8 月に国の方針が再整理されました

これまで検討されていた姿 (全ての工程をデジタル化)

- 1  **本人確認**
(マイナンバーカード等)
- 2  **デジタル予診票**
(マイナポータルでの入力)
- 3  **予診・接種**
(デジタル予診票で予診)
- 4  **接種記録**
(システムへの登録)
- 5  **請求・支払**
(オンライン処理)

全ての工程を
デジタル化

再整理後の基本方針 (段階的なデジタル化)

- 1 **当面は、紙予診票を用いた
「予診・接種」を継続**

 - これまでどおり、紙の予診票で予診・接種を行います。
 - 予診票の質問・回答を全てシステム入力するのではなく、まず「接種記録」のデジタル登録から進めることが基本。



- 2 **まず、接種記録登録をデジタル化**

 - 接種後に、医療機関が接種記録を予予・請求システムに登録します。
 - 接種記録を登録することで、月に1回自動集計され、国保連を通じて各自治体請求が行えます。

背景・補足

デジタル予診票を使用する場合、受付、予診票確認、ワクチン準備、問診・接種等の各場面で端末操作が必要となり、医療機関の業務負担が大きくなることが課題となっていました。
このため、国は、全工程のデジタル化を見直し、紙予診票による事務を変えず、当面は接種記録の登録のみをデジタル化することを基本とする方針に再整理しました。



結論

**最初から完全デジタル化を求めるのではなく、
現場負担に配慮して接種記録から始めます。**

当面の基本フロー

紙予診票で予診・接種し、接種後に接種記録を登録します

予診票の記入

紙予診票



本人確認・受付

マイナンバーカード、資格確認証、母子手帳などで本人確認・受付を行います。



マイナンバーカードがない場合は、紙予診票に記載の予防接種対象者番号での受付も可能です。

対象者・接種ワクチンの確認

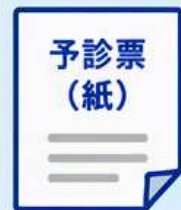
紙予診票



- ・対象者の資格確認
- ・接種可能なワクチンの確認

予診

紙予診票



紙予診票を確認し、医師が予診を行います。

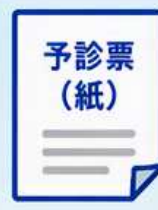
接種



医師の判断のもと接種を行います。

記録登録(請求)

接種記録をデジタルで登録



予防接種サイト or 医療機関アプリ

接種後、バーコード読み取りなどで接種記録をシステムに登録することで、請求につながります。

窓口支払



(デジタルで記録登録した場合)
デジタルで確認

システム上で対象者の自己負担額を確認し、本人から支払いを受けることができます。

自己負担額の例

インフルエンザ 2,500円

BCG 0円

など



予診票の質問・回答を全てシステムへ入力する必要はなく、接種記録のみを登録する方針です。
また、記録登録は事務職員が行うことも可能とされています。

接種記録の登録はバーコード読取りが基本です

1



医療機関における「接種記録の登録」については、ワクチンの外箱に記載されたバーコード（GTINコード）を読み取っていただくことで、**ワクチン販売名・ロット番号・有効期限を、システムに自動的に登録することが可能**となります。

2



このほか、接種量・接種方法・接種部位・接種日・接種医療機関名・接種医師名については、デフォルト設定がされるため、**目視確認のみで足り、原則手入力する必要はありません。**

3



バーコードの読取りにより、簡単にシステムに接種記録を登録できるほか、請求業務（自治体毎に紙の予診票を集計して請求総括書を作成し、各自治体に送付）を削減することができます。

4



なお、紙の予診票に記載された回答（例：現在体に具合の悪いところがありますか。－はい・いいえの回答）については、システムに登録いただく必要はなく、**接種記録のみを登録いただくこととなります。**

バーコード読取りによる記録登録（＝請求）



ワクチン販売名・ロット番号・有効期限が自動的に登録される



※ システムへの記録登録は、事務スタッフの方に行っていただくことができます。

医療機関でのデジタル化の実現方法

- 医療機関におけるデジタル化には、医療機関アプリまたは予防接種サイトのいずれかを使用します。
現在、練馬区では、いずれのシステムを運用するか検討しています。

項目	医療機関アプリ	予防接種サイト
使用端末 	タブレット端末又はパソコン ※インターネット接続が可能な端末	電子カルテ端末やレセコン端末等 ※オンライン資格確認等システムのネットワーク基盤と接続されている医療機関内の端末
提供する機能 	予診情報・予防接種記録管理／請求支払システムと情報連携しており、医療機関において、 ● 住民が登録したデジタル予診票の閲覧 ● 過去の予防接種記録の閲覧 ● 予防接種記録の登録 等を行うことができます。	
使用ネットワーク 	インターネット	オンライン資格確認等システムのネットワーク基盤
利用にあたって 	医療機関アプリの利用契約は自治体が締結し、アプリ利用料を負担します。 医療機関では、インターネットに接続が可能な端末を用意いただく必要があります。	令和10年4月からオンライン資格確認等システムのネットワーク基盤に接続されている全ての医療機関において、コストをかけずに活用できる。

当面変わらないこと・令和10年度から変わること

当面変わらないこと

(これまでどおり継続)



紙予診票による予診・接種

これまでどおり、紙の予診票を用いて予診・接種を行います。



医師による予診・接種判断

医師が予診票を確認し、予診・接種の判断を行います。



母子健康手帳等の確認

接種歴の確認は、これまでどおり母子健康手帳等で行います。



令和10年度から変わること

(デジタル化により変更となること)



接種記録のデジタル登録

接種後に、医療機関が接種記録を予子・請求システムに登録します。



接種記録の早期反映

登録された接種記録が、自治体に速やかに反映されます。



接種履歴・接種間隔の確認方法

システム上で接種履歴や接種間隔を確認できるようになります。



請求・支払のオンライン化

医療機関の請求は、予子・請求システムを通じてオンラインで行います。



集合契約への参加

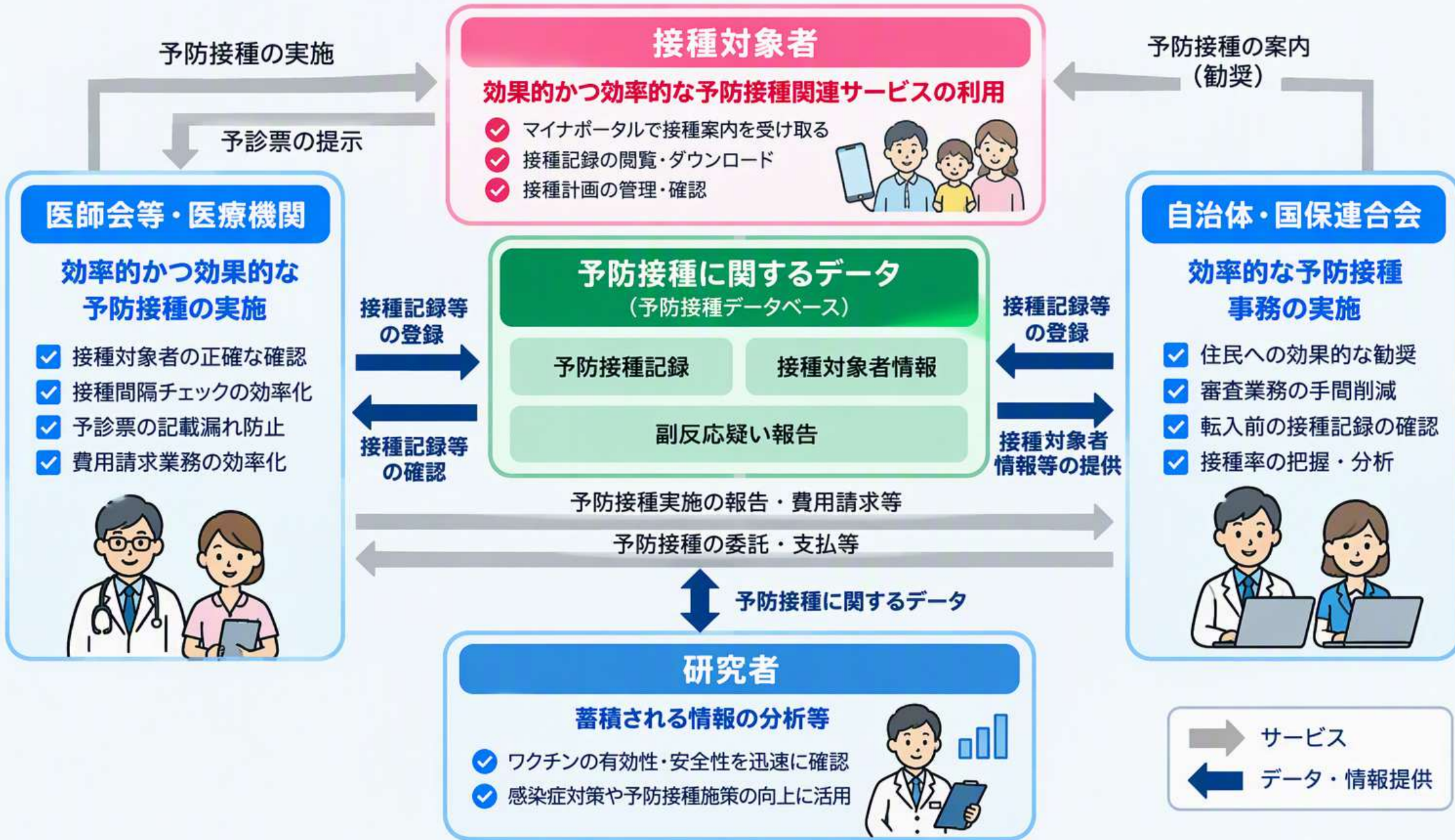
国保連との契約など、全国的な集合契約の仕組みが導入され、契約の仕組みが変わります。



結論

予診・接種の基本は直ちには変わりませんが、接種記録と請求の仕組みは変わります。

接種記録のデジタル化で期待される効果



請求・支払は国保連を介する仕組みへ

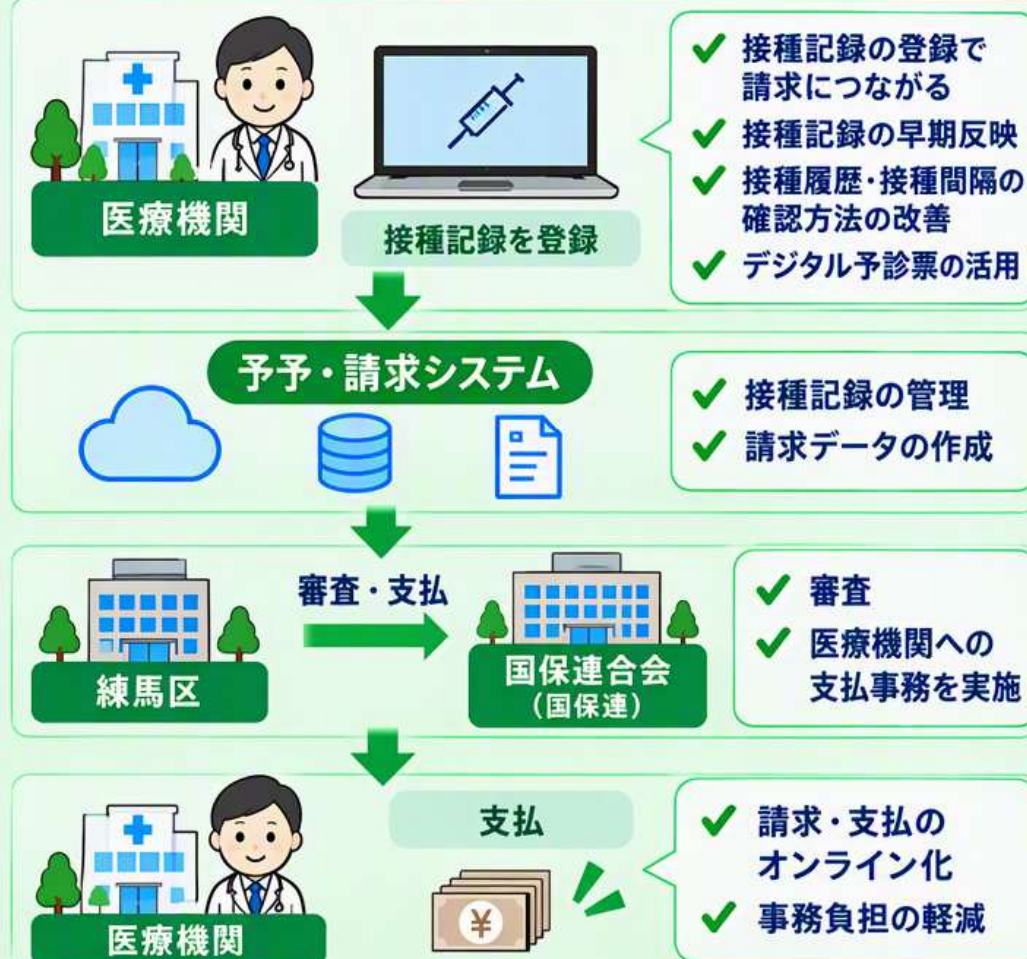
現在

紙の予診票・実施報告書を医師会経由で提出



デジタル化後

接種記録の登録が請求につながる



結論

接種記録の登録が請求につながり、支払経路が国保連経由へ変わります。

現時点で決まっていること・今後決めること

✓ 決定事項



当面は紙予診票を継続できる

デジタル化後も、従来どおり紙の予診票を用いた予診と接種は可能です。



デジタル化は接種記録から

まずは接種記録の登録を行い、請求につなげる仕組みとなります。



接種記録の登録は誰でも可能

医師・看護師に限らず、事務職員も接種記録の登録が可能です。



国保連を介した請求・支払の仕組みが導入される

医療機関からの請求・支払いは、練馬区と国保連が連携して行う仕組みとなります。

✎ 令和10年度に向けて検討中の事項



練馬区で使用する医療機関アプリ等

医療機関で使用するシステム・アプリケーションを選定します。



医療機関での運用方法

医療機関ごとにデジタル化の運用方法を検討します。



紙予診票の登録方法

紙予診票の送付方法や、接種記録の登録方法を整理します。



集合契約への参加

国保連との契約手続きや、システムのアカウント発行に関する手続きについては、今後ご案内します。



練馬区での具体的な運用開始日

令和10年度中の段階的な運用開始を予定しています。具体的な開始時期は、初期データセットアップ作業の時期等を踏まえて決定します。

💡 結論

段階的に検討・調整を行いながら、関係者の皆さまとともに
練馬区に合った運用を構築していきます。

今後の進め方

令和8年度（準備・検討）

制度の理解を深め、現状把握を行う期間



1 第1回説明会

制度の概要、方針の共有



2 アンケート調査

医療機関の現状、課題、
参加意向の把握



3 第2回説明会

具体的な運用、
システムの特徴

医師会・医療機関の皆さまと情報を共有し、
ご意見を伺いながら、練馬区の方針を具体化していきます。

令和9年度（詳細検討・準備）

具体的な運用に向けた調整・手続きを進める期間



1 第3回説明会

システムのデモ、操作イメージ、
院内フローの確認



2 システムの選定

練馬区で使用するシステムを
選定します。



3 システム利用規約への同意・ 集合契約

システムの利用規約への同意および
国の集合契約に基づく必要な契約
手続きを行います。



4 アカウント発行・接続確認

医療機関ごとにアカウントを発行し、
システムへの接続や操作確認を
行います。

令和10年度（運用開始）

運用を開始し、安定運用を目指す期間



1 運用開始

**令和10年度中の
運用開始を予定しています。**

具体的な開始時期は、初期データ
セットアップ作業の時期等を
踏まえて決定します。



2 システム導入

医療機関でのシステム導入を
行いながら、円滑な運用に向けて
進めていきます。



3 運用状況の確認・改善

運用状況を確認し、必要に応じて
改善を行います。



結論

令和10年度に向けて段階的に運用を確定させます。

今回だけで決めるのではなく、説明・調査・デモ・個別調整を重ねて導入します。

本日のまとめ

1



当面は、紙予診票による予診・接種を継続できます。

デジタル化後も、従来どおり紙の予診票を用いた予診と接種は可能です。

2

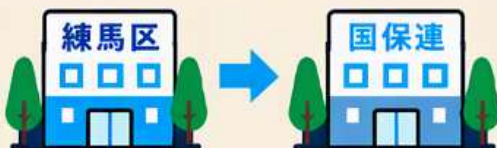


デジタル化は、接種記録の登録から

まずは接種記録の登録から進めることが基本です。

接種記録をシステムに登録することで、請求につながる仕組みとなります。

3



支払は、国保連から医療機関へ直接行われる仕組みになります。

接種記録の登録が、国保連を介した請求・支払いにつながる仕組みとなります。

4



説明会後のアンケートにご協力ください。

医療機関の現状やご意見を把握するため、アンケートを実施します。

5



今後の説明会にもご参加ください。

制度の詳細、システムの操作方法、運用イメージなどについて、段階的にご説明します。

引き続き、アンケートや個別調整を通じて、皆様と意見交換を行いながら進めていきます。



結論

急なデジタル化全面移行ではなく、

紙を継続しながら、接種記録から段階的に進めます。

予防接種事務のデジタル化に関するアンケートのお願い

1



アンケートの実施について

練馬区では、令和10年度からの予防接種事務のデジタル化に向けて、医療機関の皆様の現在の状況を把握するため、アンケートを実施します。

2



アンケート結果の活用

ご回答いただいた内容は、今後の導入を円滑に進めるための基礎資料として活用します。

3



ご協力のお願い

ご多忙のところ恐れ入りますが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

皆様の
ご協力をよろしく
お願いいたします！



ご回答はこちらから



回答URL

<https://logoform.jp/f/XzNZe>

スマートフォン・パソコンから
ご回答いただけます。

※令和8年10月31日までにご回答をお願いいたします。